

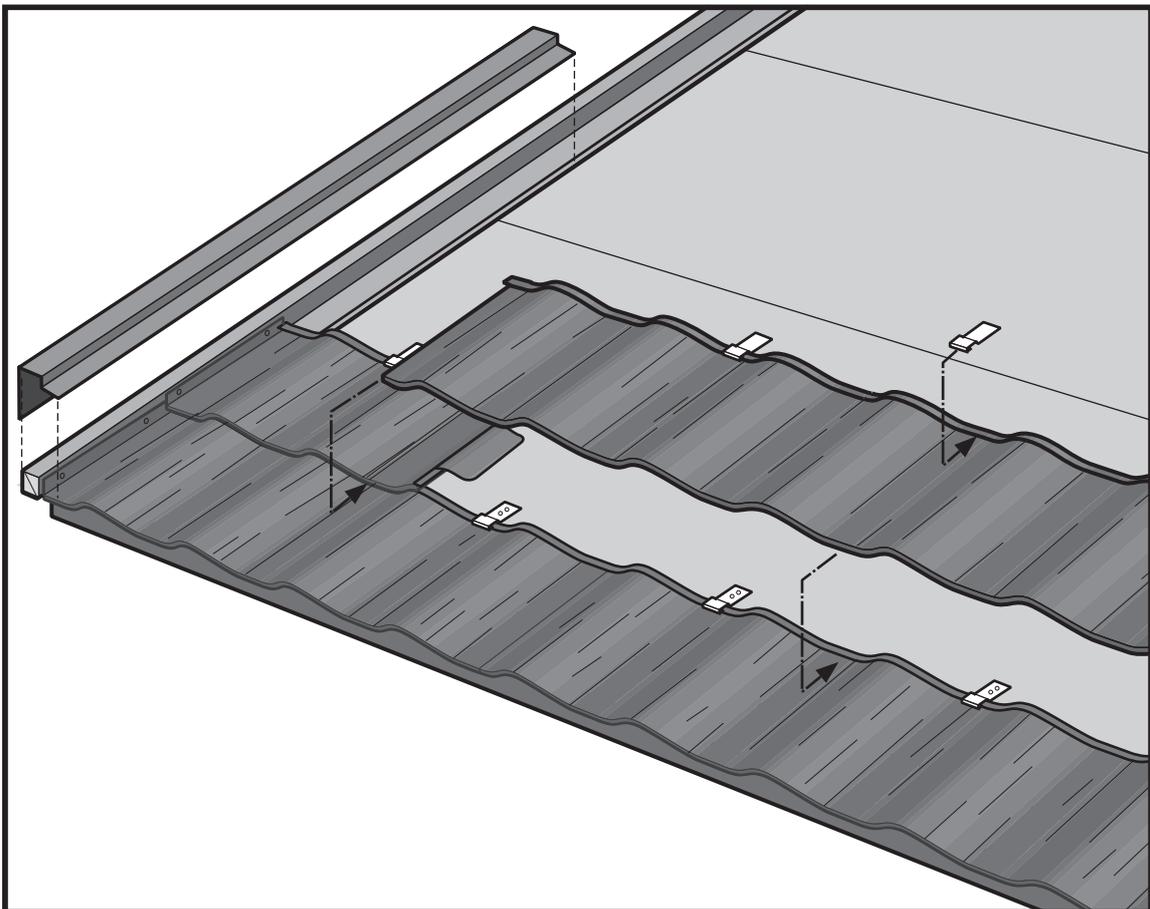


NIPPON STEEL

タイトルーフ H1

施工マニュアル

[GLカラー用]



■ 施工上の注意点	—————	P.1
■ 役物・部材一覧表	—————	P.2
■ 新築施工	—————	P.3～12
■ 化粧スレート板改修	—————	P.13

新築施工・化粧スレート板改修 共通の注意点

■ 施工前

- 屋根勾配 …………… 25/100以上とします。
- 軒先部の劣化 …………… 軒先部の野地板、棧木、ルーフィングなどの劣化状態を確認してください。
(改修の場合)
- 野地板 …………… 軒先部の野地板、棧木、ルーフィングなどの劣化状態を確認してください。
OSB使用の場合はご相談ください。
- ルーフィング …………… アスファルトルーフィング940または同等以上を使用してください。
ルーフィングの継ぎ目は上下(流れ方向)100mm以上(多雪地域では200mm)左右200mm以上重ね合わせてください。
- 下地木材 …………… 下表を参照してください。(その他の部位については納まり図参照)

新築施工	
ケラバ	45(H)mm× 36(W)mm
棟下地	36(H)mm× 45(W)mm
棟下地笠木	15(H)mm× 90(W)mm
下り棟下地	36(H)mm× 45(W)mm

- ねじ …………… 吊り子の取付
 ・新築施工 [ドリルビス 4φ×25]
 ・化粧スレート板改修 [ドリルビス 4φ×40]

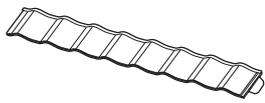
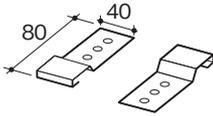
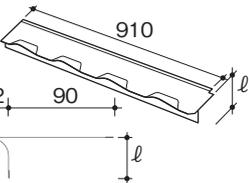
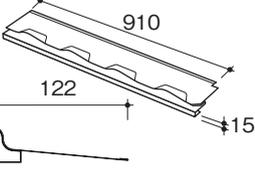
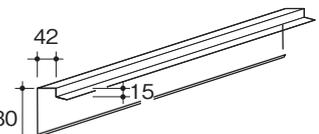
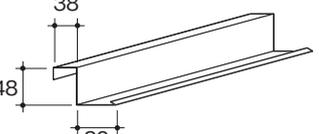
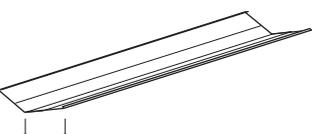
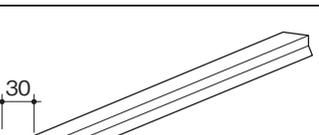
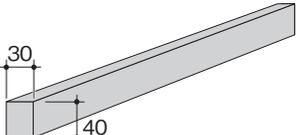
■ 施工時

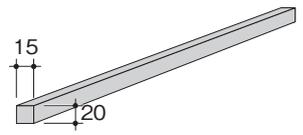
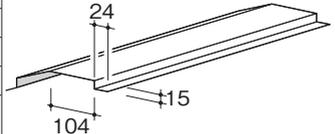
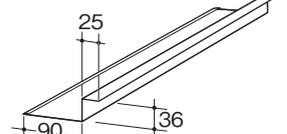
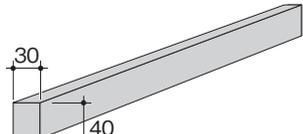
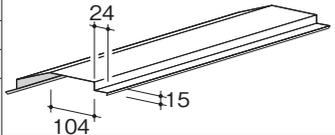
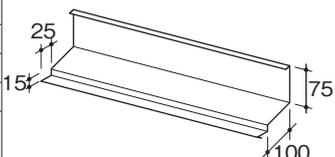
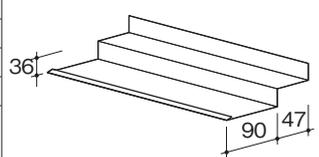
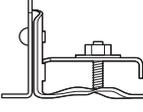
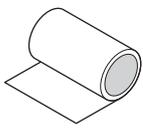
- 本体板に立ち上げ加工 …… ケラバ・棟・壁下取合部などの木棧際では、木棧にそって(流れ方向, 桁方向とも)本体板に立ち上げ(水返し)を施してください。
- 本体板の固定 …………… 本体板1枚に対し吊り子を計4箇所セットします。ケラバ際や下り棟際での短く切断した本体板で、吊り子を2箇所以上取り付けできないものは、ケラバ包みや、下り棟包み内部で野地板に向けてビス止めが必要です。
- 水切りの重ね …………… ケラバ捨水切・谷水切の重ねは100mm以上とって、特に十分なコーキング処理を行って下さい。

■ 施工後

- 屋根面にキズを付けてしまった場合は、必ず補修塗料で処理をして下さい。
- 鉄板の切り屑、釘など金属物は「貫い錆」の原因になりますので、完全に取り除いてください。
- 壁面などを塗装する場合は、必ずシートなどで養生してください。

■標準部材

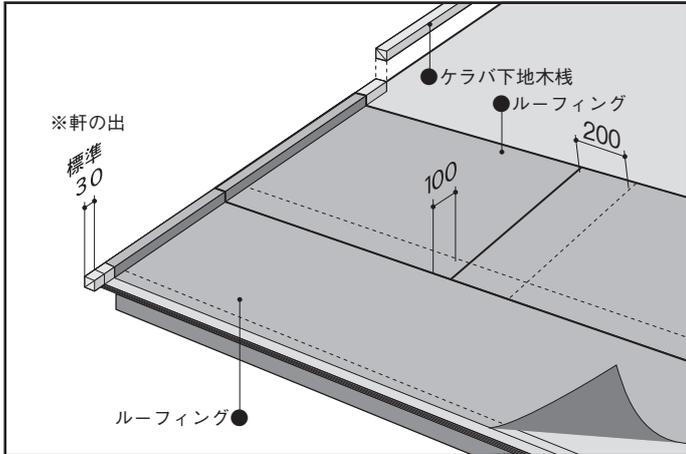
本 体	① タイトルーフH1	
	② H*60114	
	③ 305×1960	
	④ 0.4	
	⑤ 働き：280×1825 (-0,+5)	
軒 先	① 吊り子(本体用)	
	② H-10121	
	③ 40×80	
	④ 0.6	
	⑤ 100個/梱包	
ケ ラ バ	① 軒先唐草(新築用 ℓ=45)	
	② H*50112	
	③ L=25(働き：912)	
	④ 0.4	
	⑤ 改修用もあります(ℓ=65)(H*50113)	
谷	① 軒先カバー唐草	
	② H*50115	
	③ L=25(働き：912)	
	④ 0.4	
	⑤ 化粧スレート板改修用	
ケ ラ バ	① ケラバカバー(フラット)	
	② H*50211	
	③ L=1829	
	④ 0.4	
	⑤	
谷	① ケラバ捨水切	
	② HK50241	
	③ L=1829	
	④ 0.4	
	⑤ 黒のみ	
谷	① 谷板	
	② H*50311	
	③ L=1829	
	④ 0.4	
	⑤	
谷	① 谷化粧カバー	
	② H*50321	
	③ L=1829	
	④ 0.4	
	⑤	
下 り 棟	① 下り棟・谷用ケミカル面戸	
	② H-20342	
	③ 30×40×2000	
	④	
	⑤	

流 れ 調 整	① 流れ調整用ケミカル面戸	
	② H-20341	
	③ 15×20×2000	
	④	
	⑤	
下 り 棟	① 下り棟包み	
	② H*50511	
	③ L=1829	
	④ 0.4	
	⑤ 本棟包み兼用	
下 り 棟	① 下り棟捨水切	
	② HK50432	
	③ L=1829	
	④ 0.4	
	⑤ 片側タイプ 黒のみ	
平 棟	① 下り棟・谷用ケミカル面戸	
	② H-20342	
	③ 30×40×2000	
	④	
	⑤	
平 棟	① 本棟包み	
	② H*50511	
	③ L=1829	
	④ 0.4	
	⑤ 下り棟包み兼用	
下 り 棟	① ケミカル面戸	
	② H-20531	
	③ 20×40×910	
	④	
	⑤	
雨 押 え	① 雨押えカバー(桁・流れ)	
	② H*50811	
	③ L=1829	
	④ 0.4	
	⑤	
雨 押 え	① 雨押え捨水切(流れ)	
	② HK50821	
	③ L=1829	
	④ 0.4	
	⑤ 黒のみ	
共 材	① 雪止め金具	
	② H*52001	
	③ 55(W)×55(H)×74(L)	
	④	
	⑤	
共 材	① 小コイル10m	
	② H*51011	
	③ 0.4×914×10m	
	④ 0.4	
	⑤	

部品番号の*は色を示します。 *の凡例 K:黒 R:茶 M:緑 S:銀黒 ①部材名 ②部品No. ③寸法(mm) ④ t(mm) ⑤備考

下地類の取付け

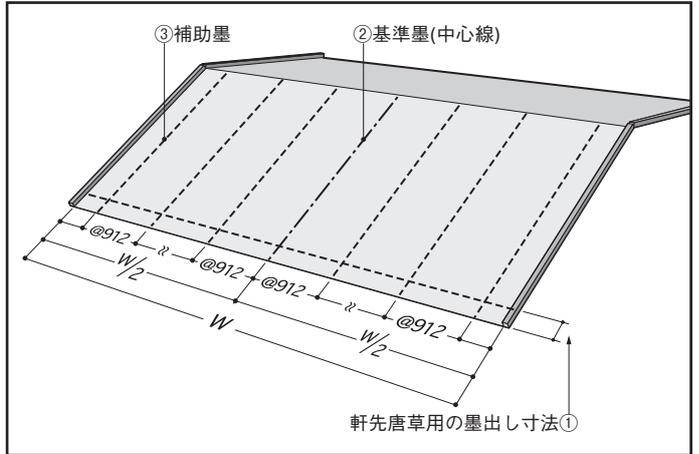
■ケラバ下地木棧および、ルーフィング貼り



- 軒先唐草用の基準墨を、軒の出に対応した寸法で野地板に墨出しします。
- 木棧は野地板端部に合わせ、軒の出(標準30mm)をとって取付けます。
[□-H45×W36]
[サラ木ネジ5×65 @450]
- ルーフィングの継ぎ目は、上下(流れ方面)100mm以上(多雪地域では200mm)、左右200mm以上重ね合わせてください。
- 谷部及び棟部は、谷底及び棟頂部より両方向へそれぞれ250mm以上重ね合わせてください。P.9参照
- 屋根面と壁面立ち上げ部の巻き返し長さは、250mm以上かつ雨押さえ上端より50mm以上としてください。P.11参照

墨出し

■墨出し

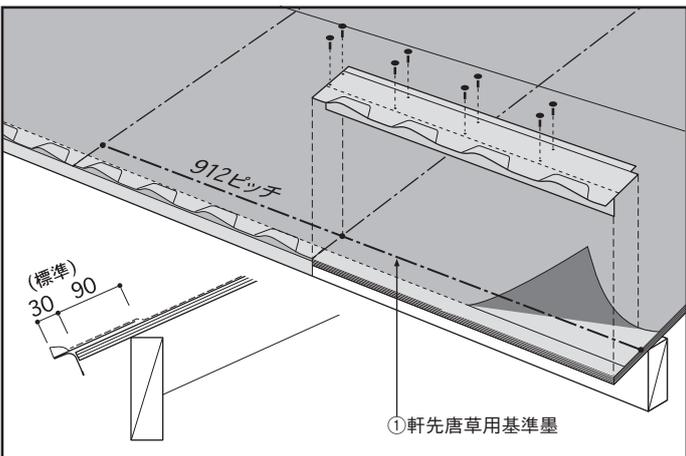


- ①基準墨:屋根面の中心に墨出しします。
- ②補助墨:②から912ピッチで平行に墨出しします。

軒の出	30mm(標準)	40mm	50mm	60mm
(目)寸法	90mm	80mm	70mm	60mm

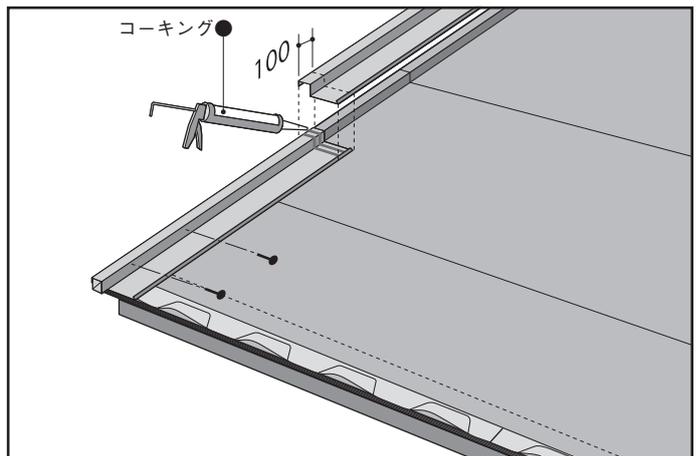
先付け役物部材の取付け

■軒先唐草の取付け



- 軒先唐草を墨(①～③)に合わせて釘止めします。
[木ネジ4×25 8本/枚]
- ケラバ部(左右)での軒先唐草の長さ調整・取付けは、軒先唐草の割付けによって、ケラバ部では長さの切断が必要です。

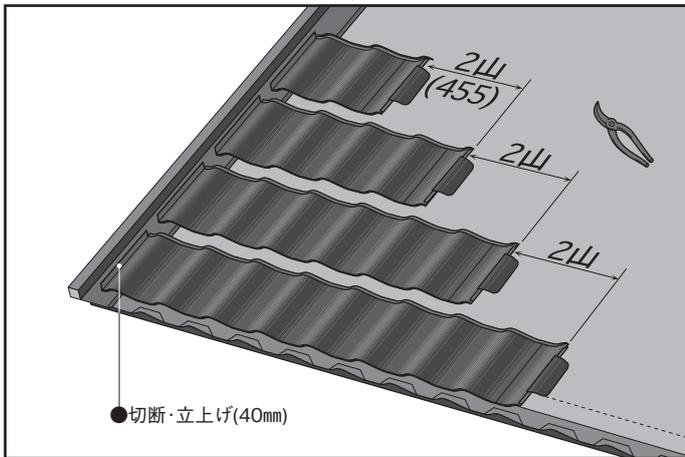
■ケラバ捨水切の取付け



- ケラバ捨水切の、木棧を覆う部分は木棧先端に合わせ、野地板に乗る部分は、野地板先端でカットします。
- 重ねは100mmとり、2条コーキングを施して接続します。
- 木棧先端から釘を打ちます。
[SUSスクリーユ釘 l=32 @350]

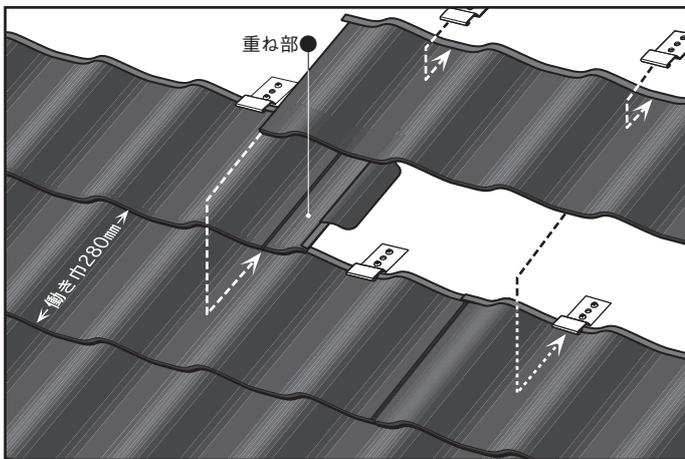
本体板の取付け

■本体板の切断

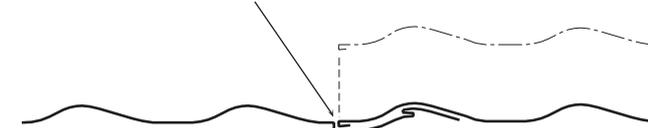


- 上図のように、2山ズラシの千鳥葺きで葺く場合、ケラバに接する本体板を上図のようにカットし、端部を木棧にそって40mm立ち上げます。
- 反対側のケラバ部も同様です。
- 5段目以降も同様です。

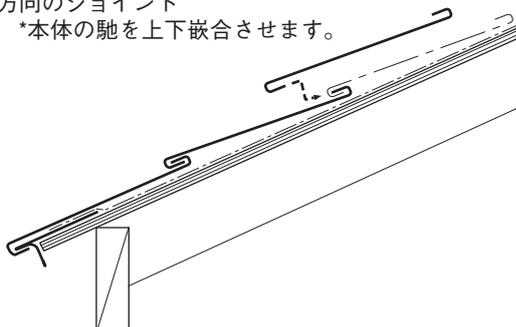
■本体板のジョイント詳細



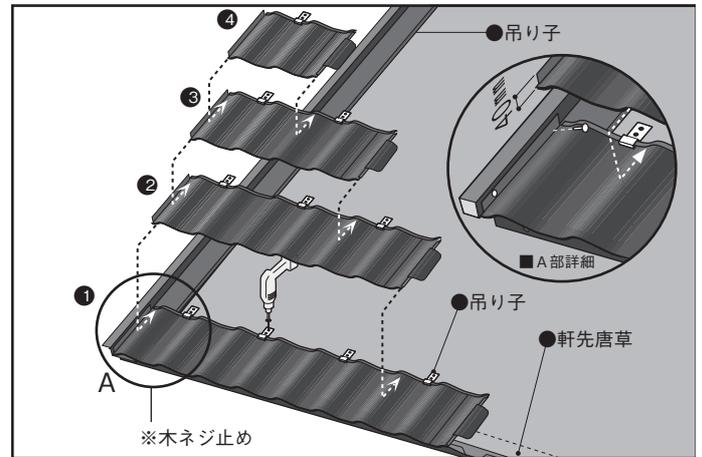
- 横方向のジョイント
*目地部に合わせます。



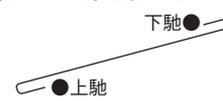
- 縦方向のジョイント
*本体の馳を上下嵌合させます。



■本体の取付け



- ①一段目:本体板軒先側の上馳を軒先唐草にはめて、吊り子を下馳谷部へ、1山おきに引っかけて野地板にビス止めします。
[木ネジ 4×25]



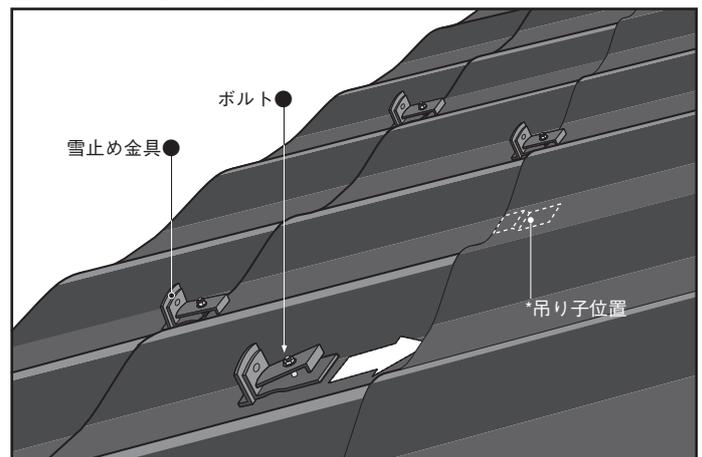
- ②～④二段目以降:上下段の本体板の馳を互いに嵌合させ、動き巾(280mm)や縦横の通りを確認して取り付けます。

※吊り子は上図のように①～④の順でビス止めていくと本体板取付精度が出しやすい。

- ケラバ際の立ち上げ部分を木棧に2本、ネジ止めします。
[木ネジ 4×25]

雪止め金具の取付け

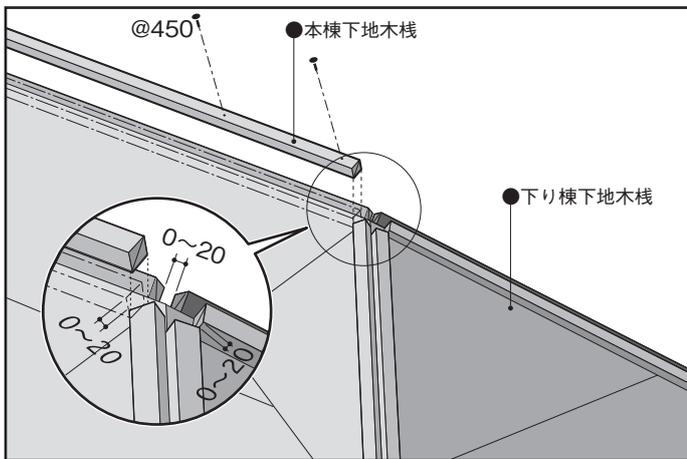
■雪止め取扱い詳細



- 雪止め金具は、吊り子(2山おきに取付)の無い谷に取り付けます。(上図のように千鳥配置)
- 取り付けは、金具のベースを本体板嵌合部のスキマに差し込んで、ツカミ部が止まるまでボルトを締付けます。

棟下地木棧・軒先唐草の取付け

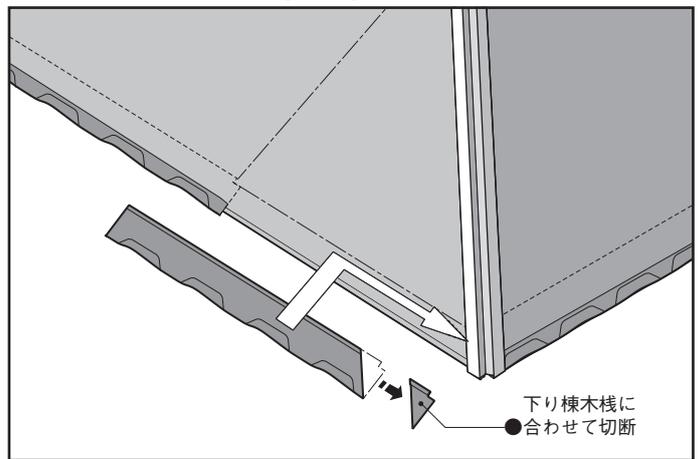
■本棟・下り棟 下地木棧の取付け詳細



●各木棧は野地板端部に合わせ木ネジ止めします。
[本棟木棧H36×W45, 下り棟木棧H36×W45]
[サラ木ネジ 4×75/5×65 @450]

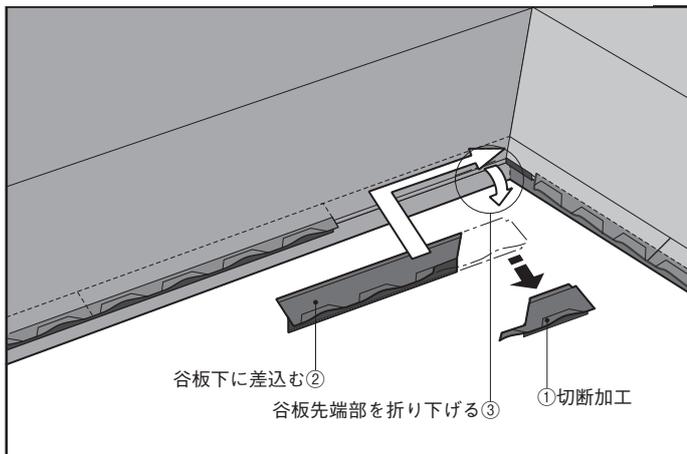
●三つ又部(上図)は、スキマを20mm以内におさめます。

■軒先唐草の取付け(隅棟)



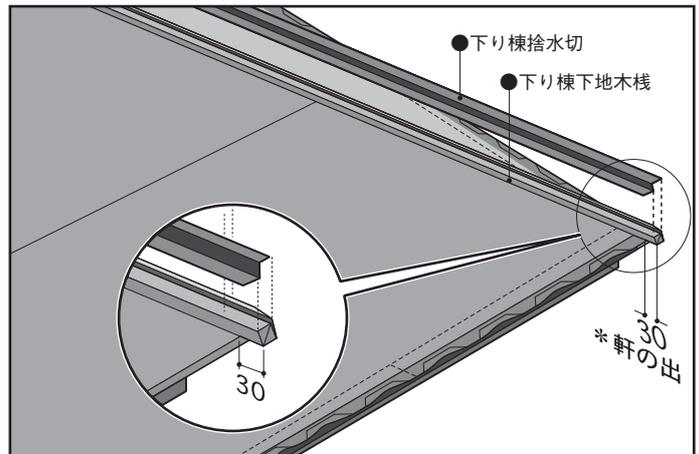
下り棟下地木棧に合わせて斜めに切断し、捨水切の下に木棧まで差し込んでビス止めします。
[木ネジ4×25 8本/枚]

■軒先唐草の取付け(谷入り隅)



●軒先唐草は谷芯までいっぱいに取り付けます。そのため、谷板の折下げ部では軒先唐草を切り欠いて、谷板下側の谷芯まで差し込みます。

■下り棟 木棧・捨水切の取付け

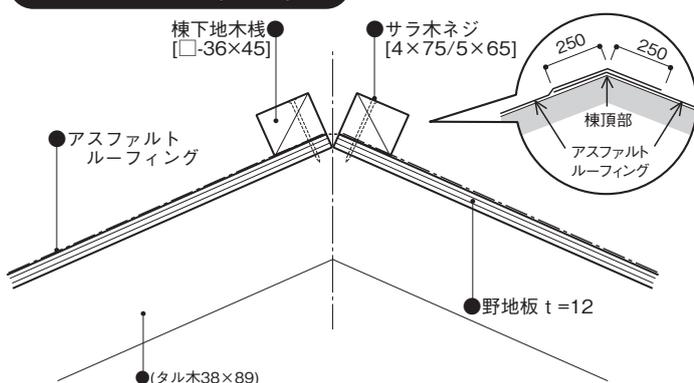


●木棧先端は軒の出に合わせて切断します。
[下り棟下地木棧H36×W45]

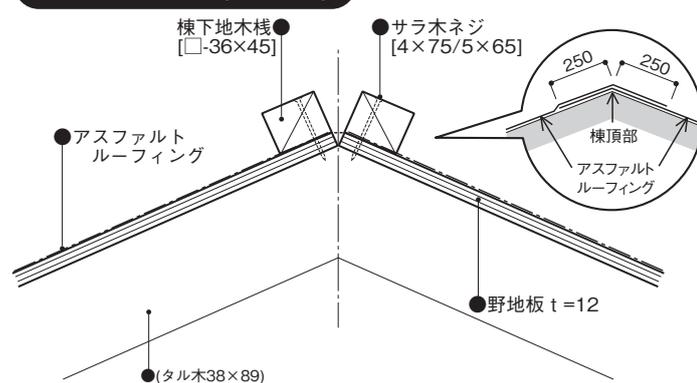
●下り棟捨水切を木棧にセットし、上面から木棧に釘打ちします。
[SUSスクルー釘 $\phi=32$ @350]

●重ねは100mmとって、2条コーキングを行います。

■木棧納まり(本棟)

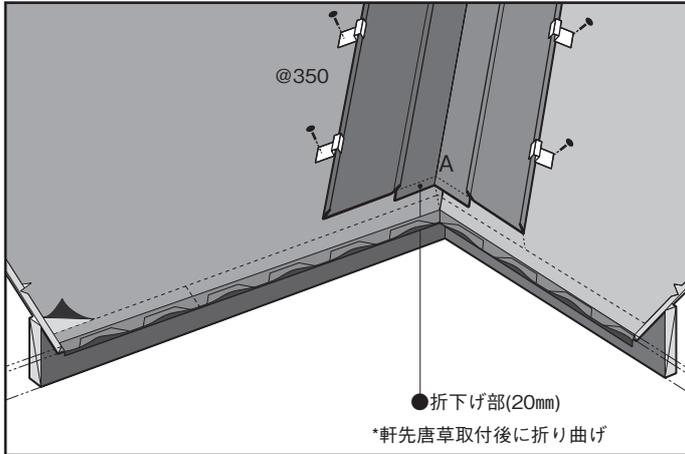


■木棧納まり(下り棟)



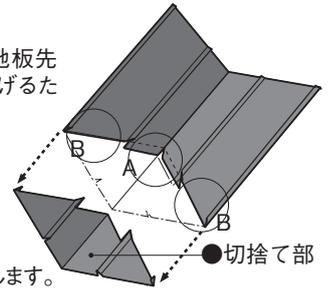
谷板の取付け

■谷板の加工と取付け



●上図のように谷板中心部Aに、野地板先端(軒の出30mmの場合)で折り下げるための曲げ分を残します。

*軒の出(30~60mm)の場合、折り下げを野地板先端ではなく、軒先唐草の折り下げに合わせて。



●B部は野地板先端に合わせて切断します。

●谷板を谷芯に合わせて、吊り子(現場加工)でビス止めします。(上図) [木ネジ4×25 @350]

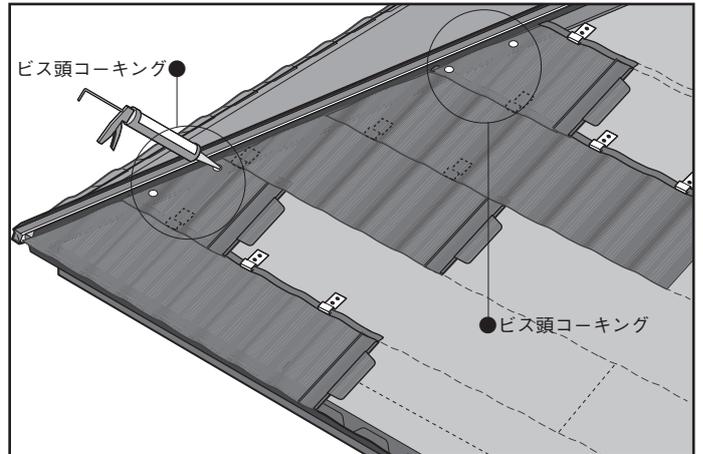
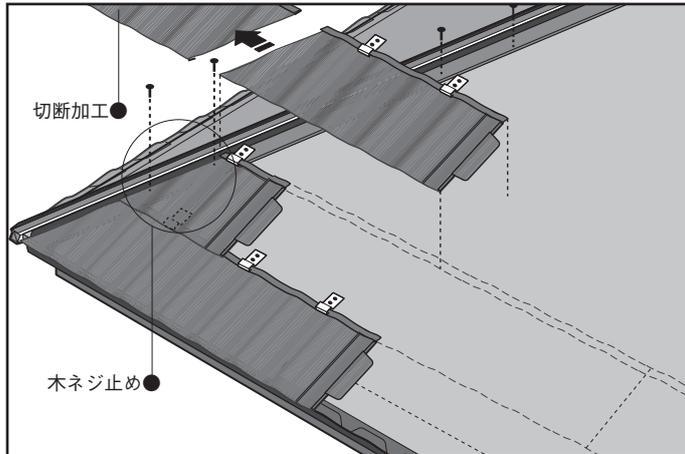
●重ねは100mmとり、2条コーキングします。

●棟際には、棟木棧にそって40mm立ち上げて、釘止めします。 [木ネジ4×25 両側計6本]

●軒先唐草の取付後、軒先唐草を包む様に折下げ部を曲げます。

本体板の取付け

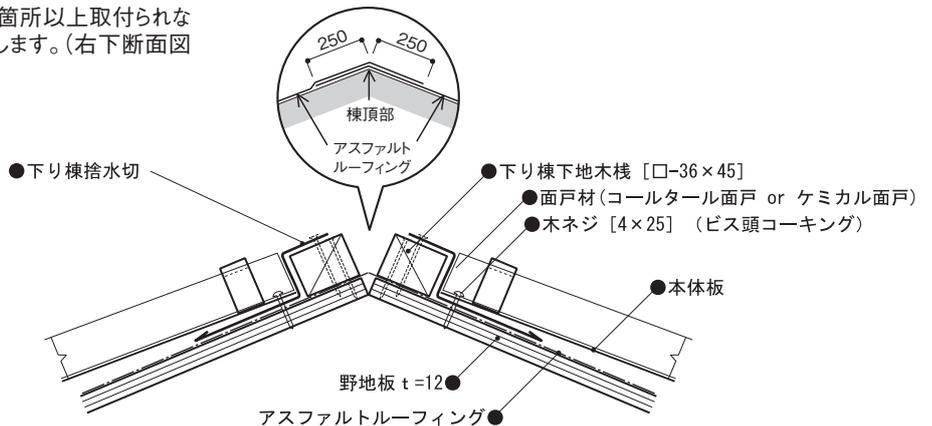
■半端切断の本体板の処理について



●下り棟際の本体板は上図のように、切断部は木棧にそって斜めに切断したものを施工します。

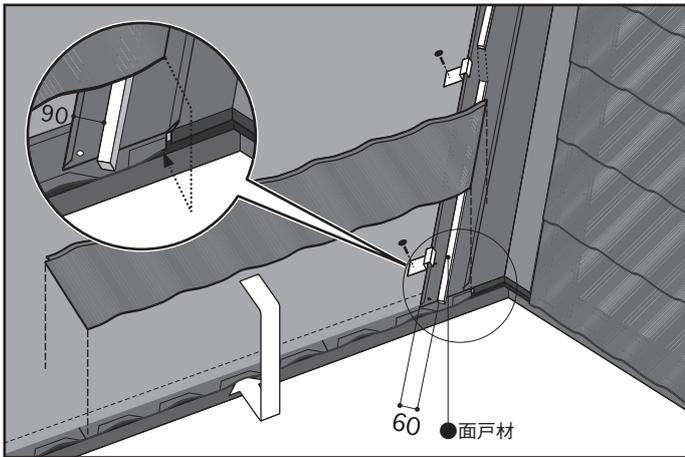
●また、左図で直接野地板へネジ止めした場合、必ずビス頭にコーキングを施して下さい。

●特に上図、円内の短い本体板のように、吊り子を2箇所以上取付られない場合、木棧脇の谷部で直接野地板へネジ止めします。(右下断面図参照) [木ネジ4×25 ビス頭コーキング 2本/枚]



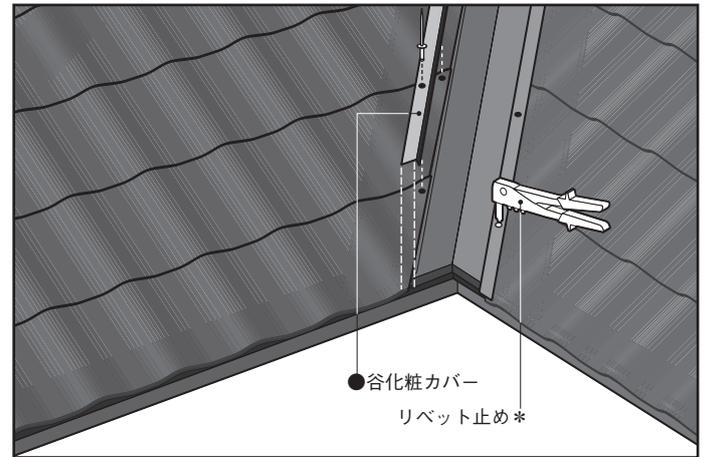
谷部の収め

■ケミカル面戸および本体板の取付け



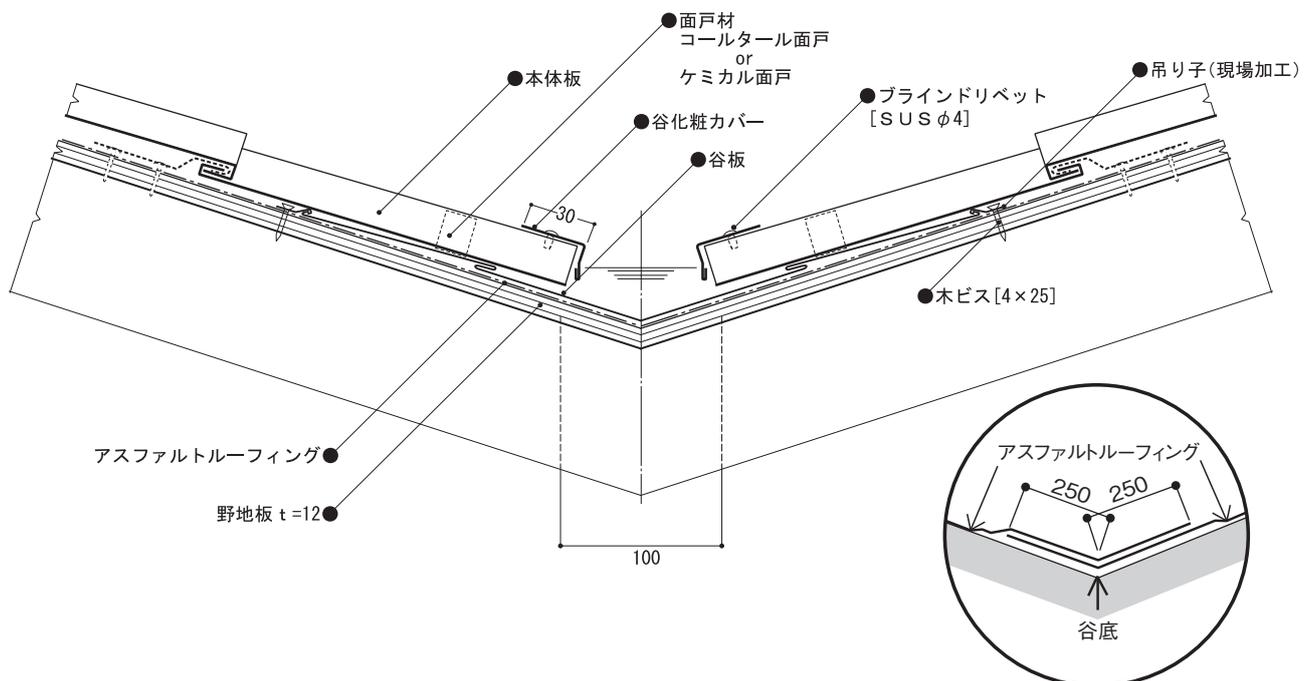
- 面戸材(市販のコルタール面戸、もしくは当社ケミカル面戸)のハクリ紙をはがし、谷板の外縁より60mm程度の位置に貼り付けていきます。
- また、面戸材の継ぎ足しはスキマのないように行って下さい。
- 面戸材貼付後、本体板は、谷板の中心より約50mmの所で切断し取付けます。

■谷化粧カバーの取付け



- 谷化粧カバーの取付前に、あらかじめ水糸を張り、本体板切断部の通りを確認して下さい。
- 谷化粧カバーを本体板切断部にセットし、本体板の山部にリベット止めします。
[SUSブラインドリベットφ4 各山]
- 谷化粧カバーの継ぎ足しは、重ねを30mmとって、本体板山部で接続します。

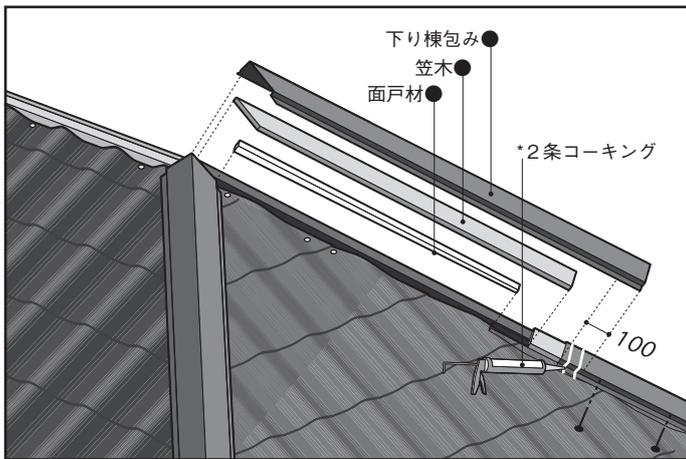
■谷部納まり図



本棟・下り棟役物の取付け

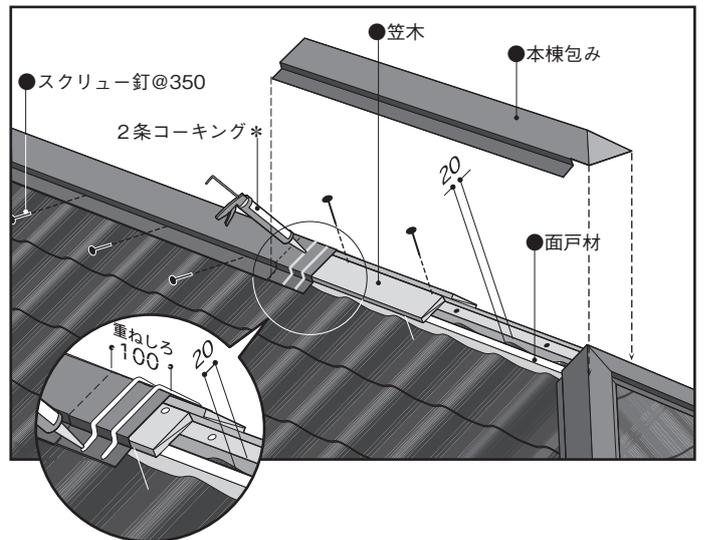
*本棟際の本體板加工・取付方法はP.6を参照して下さい。

■下り棟(平棟)納め



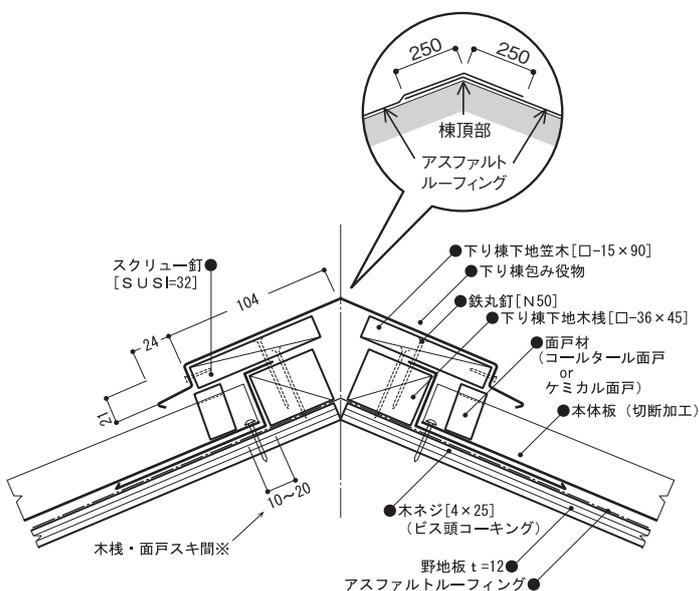
- 面戸材：面戸材には、市販のコーラール面戸、または当社ケミカル面戸を使用します。面戸材のハクリ紙をはがし、木棧にそって本體板に貼り付けます。
又、面戸材の継ぎ足しはスキマのないように行って下さい。
- 笠木：木棧に面（棟側）を合わせ、釘止めします。
[鉄丸釘 N50 @450]
- 下り棟包み：1本目の棟包みは軒先木口の曲げ分を残してセットし、釘止めします。
2本目以降、100mmの重ねをとって2条コーキングし、笠木側面に釘打ちします。
[SUSスクリーユ釘 @350]

■本棟(平棟)納め

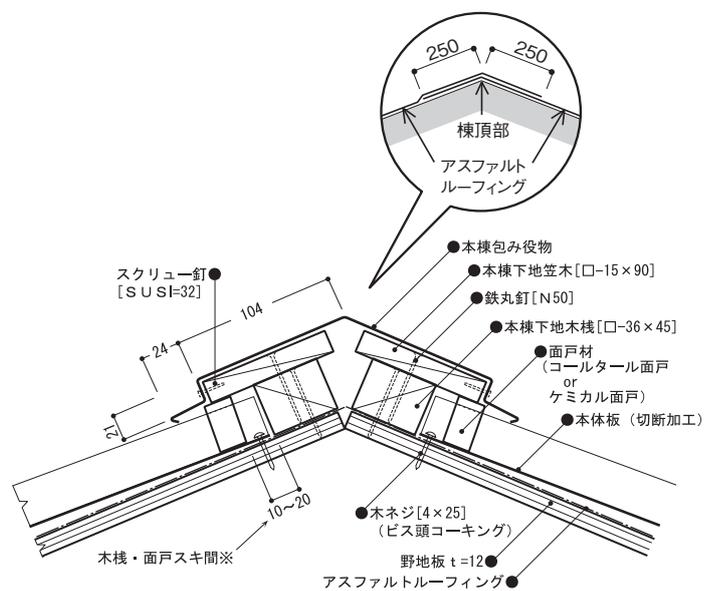


- 面戸材：面戸材には、市販のコーラール面戸、または当社ケミカル面戸を使用します。面戸材のハクリ紙をはがし、木棧に20mmのスキマを空けて本體板に貼り付けます。
- 笠木：木棧に面（棟側）を合わせ、釘止めします。
[鉄丸釘 N50 @450]
- 本棟包み役物：棟包みの重ねを100mmとって2条コーキングをし、笠木にかぶせて、笠木側面に釘打ちします。
[SUSスクリーユ釘 l=32 @350]

■下り棟納まり図

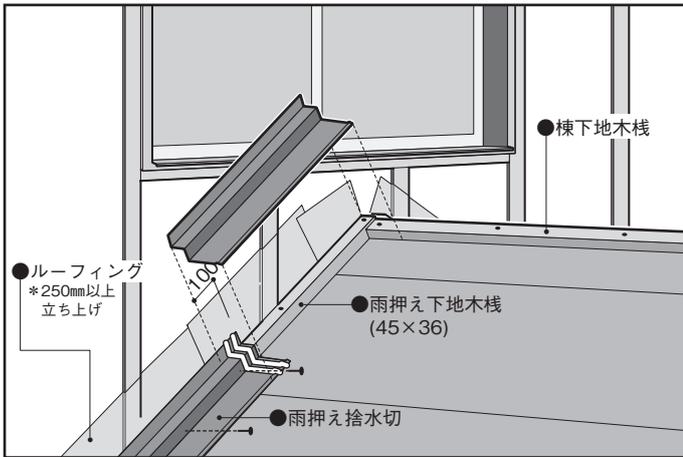


■本棟納まり図



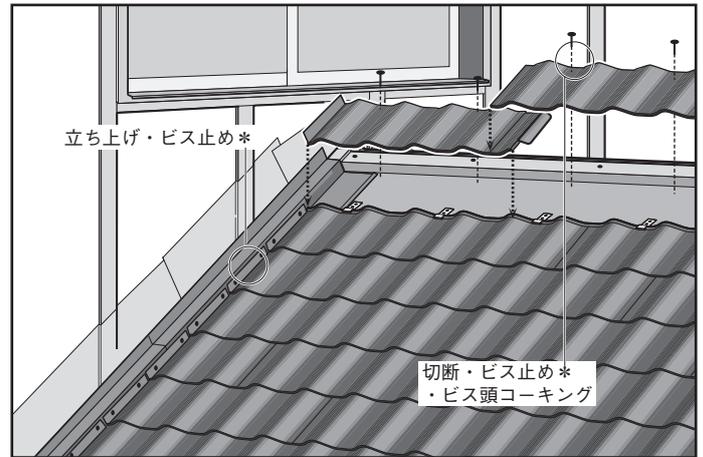
壁取合い部(流れ方向)

■ルーフィング、下地木棧、雨押え捨水切の取付け



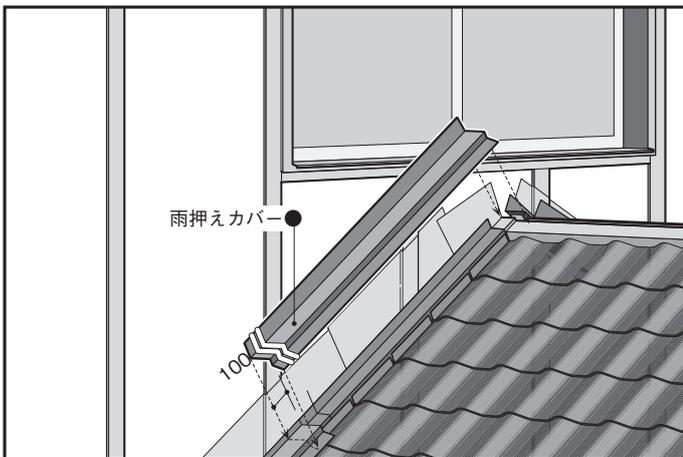
- ルーフィングは250mm以上立ち上げます。
- 屋根面と壁面立ち上げ部の巻き返し長さは、250mm以上かつ雨押え上端より50mm以上としてください。
- 雨押え下地木棧を壁下にそって野地板へビス止めします。
[雨押え下地木棧H36×W45],[サラ木ビス5×65 @450]
棟下地木棧を棟芯によせ、野地板いっばいにビス止めします。
[棟下地木棧H36×W45],[サラ木ビス5×65 @450]
- 雨押え捨水切を壁下木棧にセットして、木棧側面に釘止めします。
[SUSスクリュー釘 @350]

■本体板の取付け



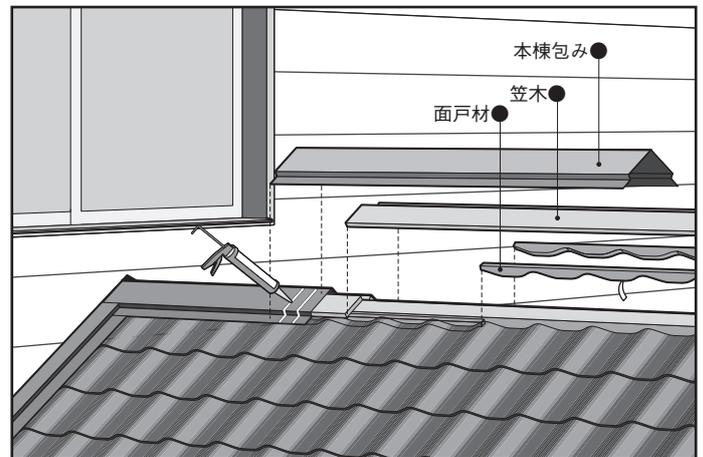
- 本体板の基本取付け方法はP.5「本体板の取付け」を参照してください。
- 雨押え下地木棧際の本体板には水返しの立ち上げ加工を施して取付けます。
*取付け方法の詳細はP.5参照
- 本棟際の本体板は、切断加工等を施して取付けます。
*取付方法の詳細はP.6参照

■雨押えカバーの取付け



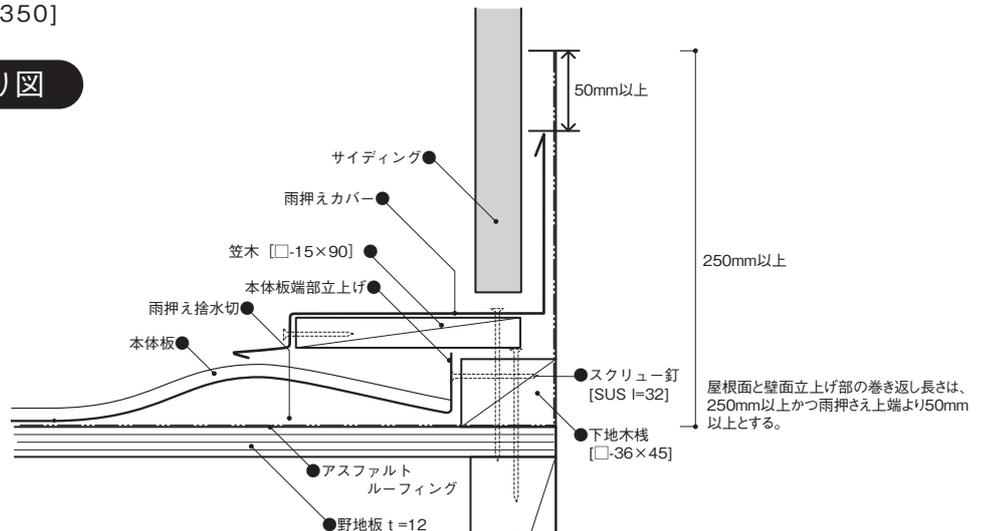
- 雨押えカバーを壁下ケラバ木棧にセットし、木棧側面に釘止めします。 [SUSスクリュー釘 @350]

■棟納め



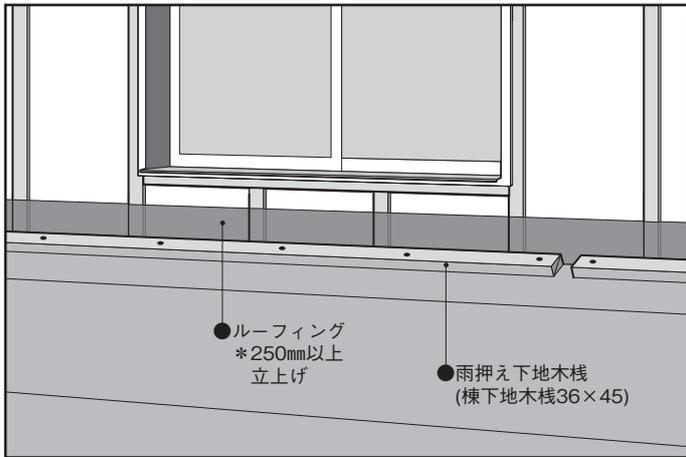
- P.6「本棟包み役物の取付け」参照

■壁下雨押え(流れ方向)納まり図



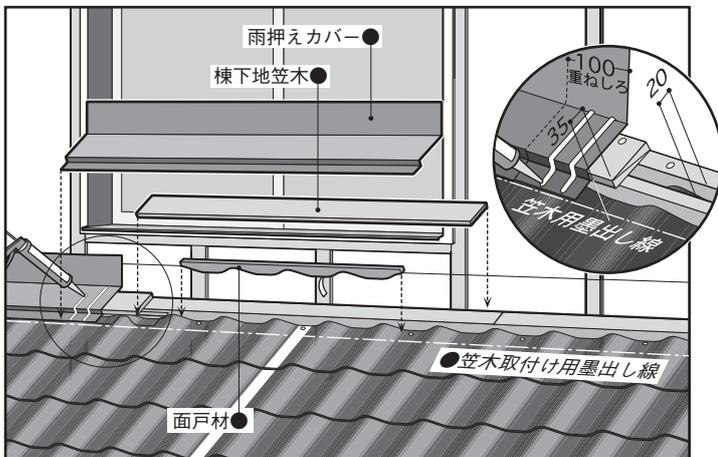
壁取合い部(桁行方向)

■壁下の下地木棧取付け



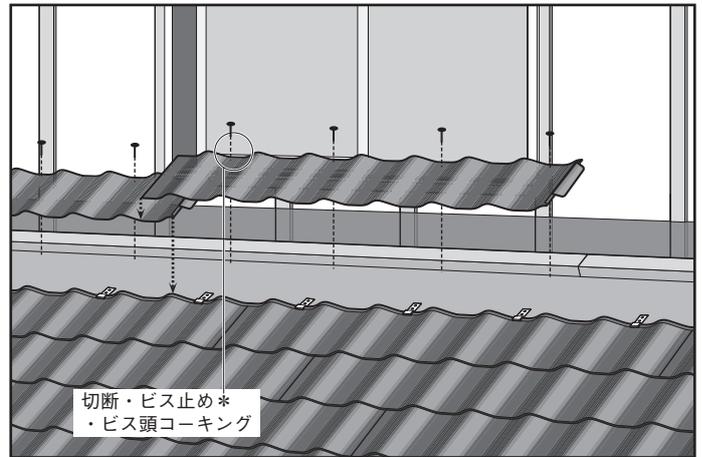
- ルーフィングを壁面へ250mm以上立ち上げます。
- 屋根面と壁面立上げ部の巻き返し長さは、250mm以上かつ雨押さえ上端より50mm以上としてください。
- 木棧を壁下にそって野地板へビス止めします。
[下地木棧 H36×W45]
[サラ木ビス 5×65 @450]

■雨押えカバーの取付け



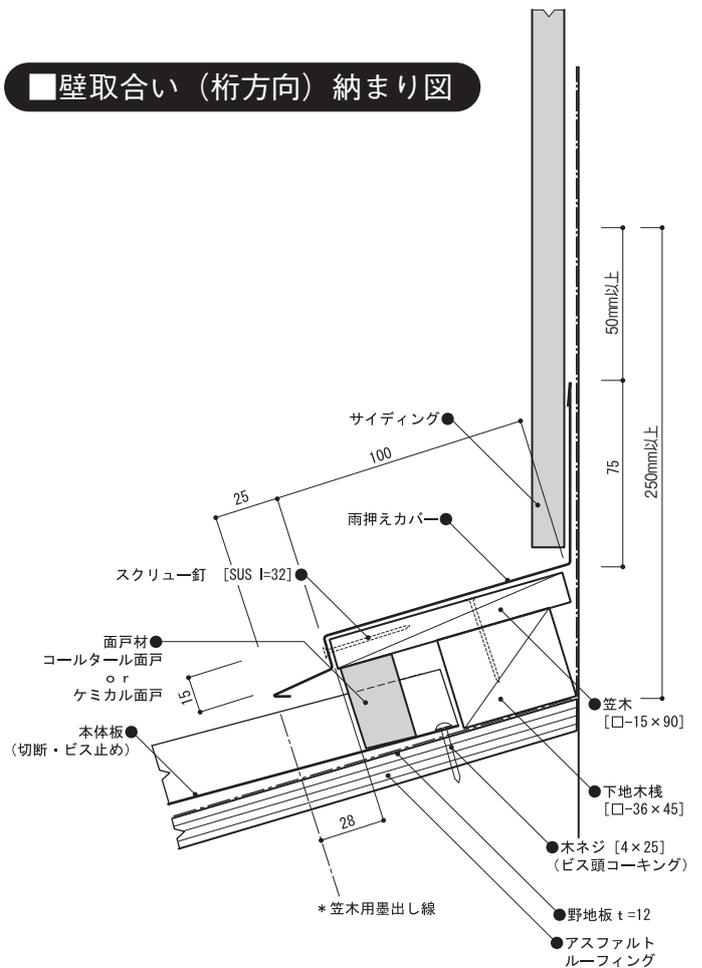
- 面戸材：面戸材には、市販のコルタル面戸、または当社ケミカル面戸を使用します。面戸材の剥離紙をはがし、木棧に20mmの隙間を空けて本体板に貼り付けます。
- 笠木：雨押さえカバーの仮セットで墨出しを行ったら、墨から28mm返った位置に笠木を木棧へ釘止めします。
[鉄丸釘 N50 @450]
- 雨押さえカバー：雨押さえカバーの重ねを100mmとって2条コーキングをし、笠木にかぶせて、笠木側面に釘打ちします。
[SUSスクリュー釘 ℓ=32 @350]

■本体板の取付け



- 壁際の本体板取付けはP.6「本棟際の本体板の取付け」と同様の要領です。

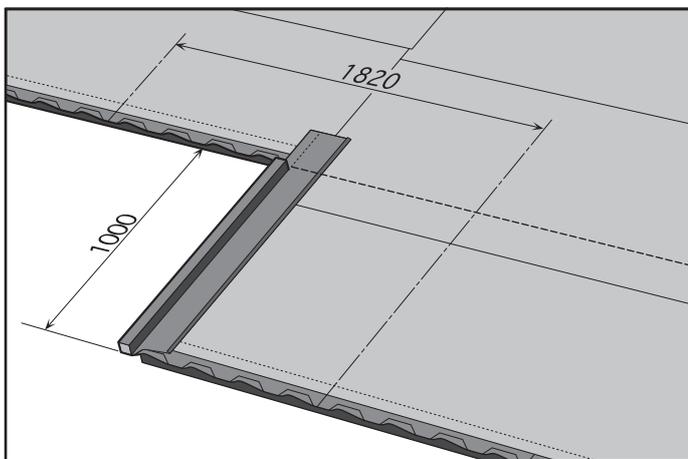
■壁取合い (桁方向) 納まり図



屋根面と壁面立上げ部の巻き返し長さは、250mm以上かつ雨押さえ上端より50mm以上とする。

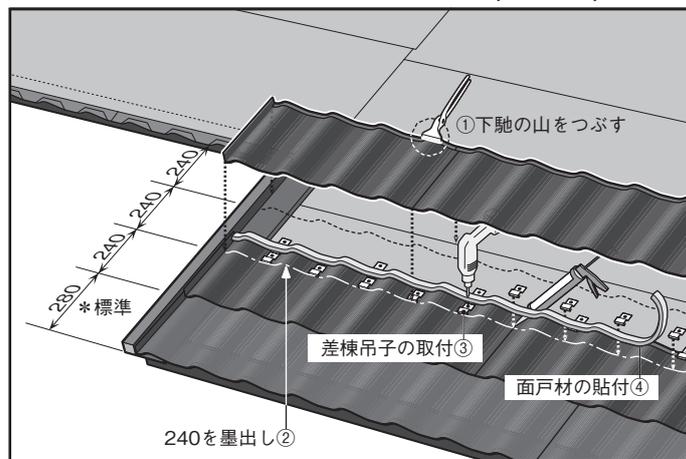
軒先違いの施工詳細 * 軒先・ケラバ部木椼際の本体板の加工・取付け方法はP.4を参照

■ケラバ捨水切および各軒先唐草の取付け



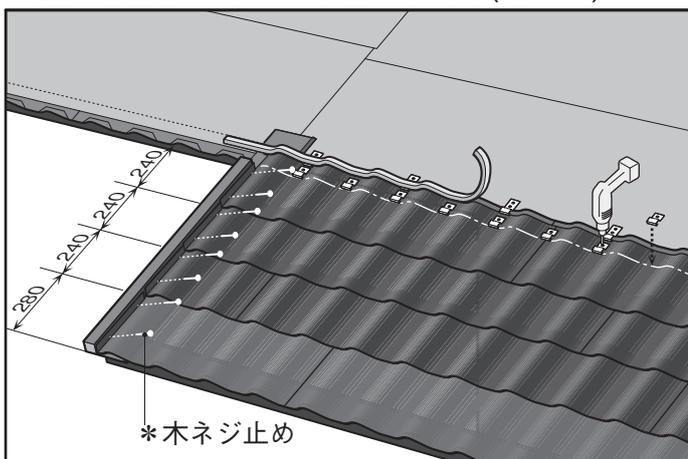
- 上図では一例として1000mmの軒先違いを説明しています。
- ケラバ部分のみに下地木椼を取り付け、ケラバ捨水切をかぶせます(上図の様に、木椼の無い部分は平らにします)。
- 軒先唐草は、異なる軒先に於いても割り付けがずれないように注意してください。

■特殊な働き巾での本体板の取付け(その1)



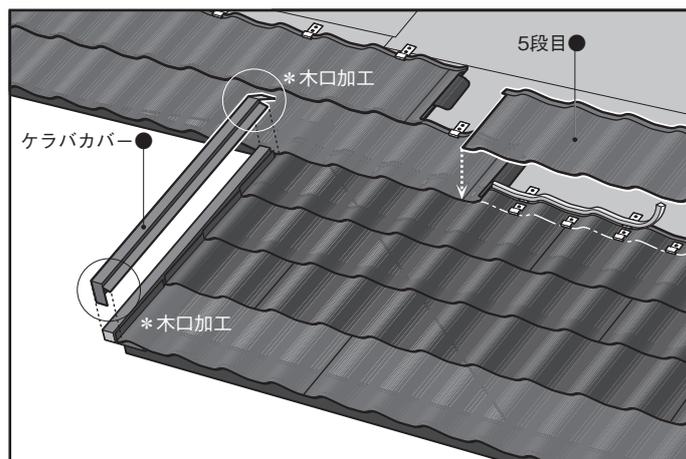
- 1000mmは、本体板の働き巾=280mmで割切れない寸法のため、上図の様に割り付けます。
*1段目は標準=280mmとする。
*2段目以降は等分=240mmで割り付ける。
- 1段目の本体板
*通常の取付方法。
①つかみでハゼの山部分をつぶした本体を2段目に取り付けます(取付け方法は通常どおり)。
②本体板に次段の働き幅240mmを墨出します。
③「段付ケラバ・差棟用吊子」を墨②に合わせて本体板の谷部全てにビス止めします。[吊子裏面およびビス頭に要コーキング]
④流れ調整用ケミカル面戸を吊子③の後ろ側に貼り付けます。
⑤上ハゼの山部をつぶした本体の下ハゼを「段付ケラバ・差棟用吊子」③に引っ掛け、本体を吊子でビス止めします。
*取付け方法の詳細はP5参照

■特殊な働き巾での本体板の取付け(その2)



- 本体板を取付けます(2~4段目)。
- 本体板のケラバ木椼部の立ち上げをビス止めします。
[木ネジ 4×25]

■ケラバカバーの取付け

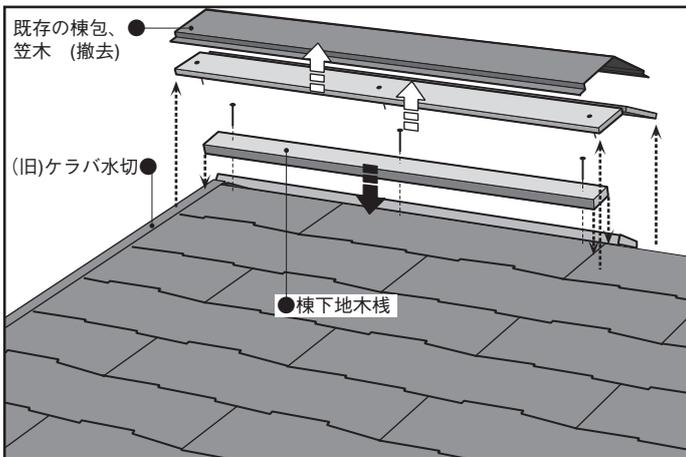


- 引き続き、本体板を取付けます(5段目~)。
- ケラバカバーを取付けます。(P.7参照)
*雨仕舞上、風雨の吹込みを考慮する場合、水上側の木口加工を施してから、5段目本体板を取付けます。

不要な既設部材の撤去・下地木棧の取付け

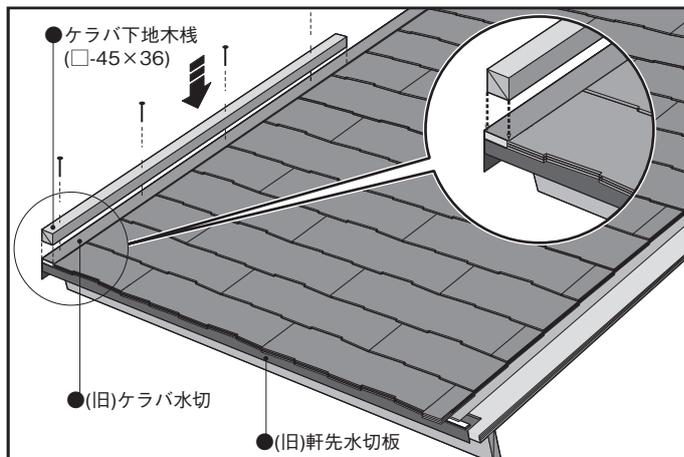
※図は化粧スレート板の重ね葺き工法を示します。

■板金棟・笠木の撤去



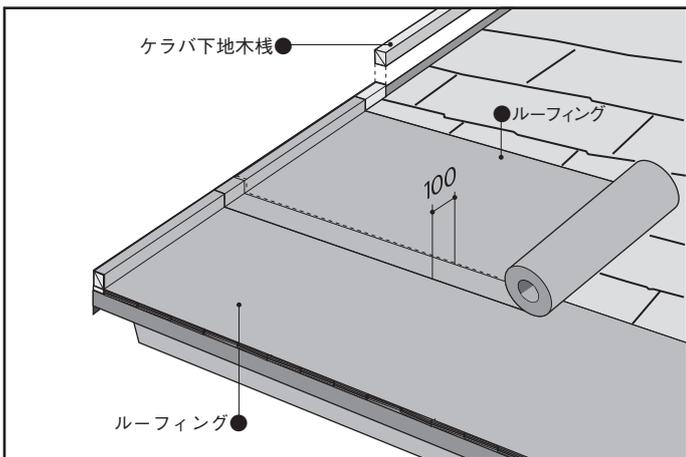
①既存の棟包み役物・笠木を撤去します。

■ケラバ下地木棧の取付け



①木棧：既存のケラバ水切端部に合わせ取付けます。
[コースネジ L65 @450以下]

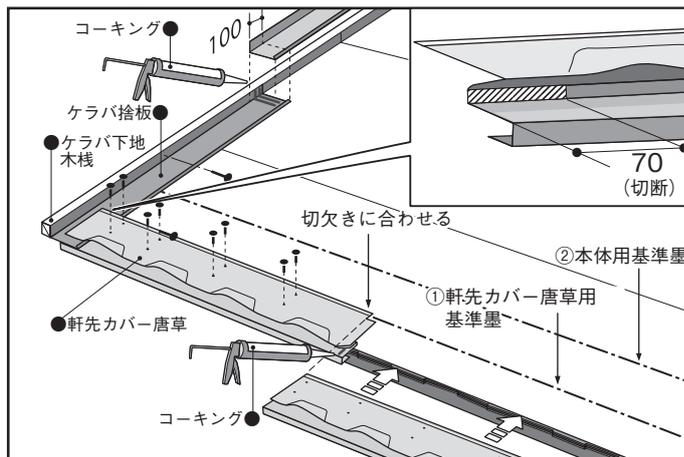
■ルーフィング貼り



①軒の出と化粧スレート板の上にルーフィングを貼ります。
※アスファルトルーフィングはルーフィングネイル(又は大平頭釘)で仮固定してください。
②施工時はスプーンネジ41又はコースネジ40を使用してください。(スプーンネジを使用すると入りやすくなります)

軒先・ケラバの施工

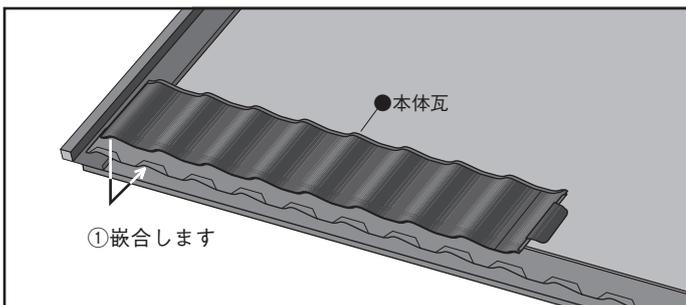
■ケラバ捨板、軒先カバー唐草の施工



①ケラバ捨板の木棧を覆う部分は木棧先端に合わせます。
②重ね部は100mmとり2条コーキングを施して接続します。
③木棧の横に釘で固定します。
[ステンレスクリュー釘 L32 @300]
④軒先カバー唐草とケラバ捨板が重なる部分は、軒先カバー唐草の凹部分を70mmカットしその間にケラバ捨板を納めます。
⑤軒先カバー唐草を墨①に合わせてネジ止めします。
[コースネジ L25 8本/枚]
⑥軒先水切部にコーキングを施して切欠きを合わせて繋いでいきます。

■本体瓦の施工

■本体瓦 1段目の軒先カバー唐草との嵌合



①本体瓦：軒先側の前ハゼを軒先カバー唐草に合わせ嵌合します。以下、標準工法p.5に準じます。

化粧スレート板改修マニュアルは、基本的な施工例を示したものです。各部の詳細は、化粧スレート板の施工状況を十分に考慮し、雨もり等の不具合がない様きれいに納めるようにしてください。

●ご注意ならびにお願い●

本資料に記載された技術情報は、本資料の発行時点における弊社製品の一般的な特性や性能を説明するためのものであり、それによって何らかの保証をするものではありません。また、本資料に記載された技術情報は、個別の使用目的・環境・条件等によってあてはまらないことがありますので、ご注意ください。本資料は予告なしに変更されることがあります。最新の情報については、弊社各担当部署にお問い合わせください。



☆ 日鉄日新製鋼建材株式会社

本社	〒135-0016	東京都江東区東陽3-23-22 東陽プラザビル	TEL.03-5635-6136
北海道支店	〒060-0042	札幌市中央区大通り西7-1-1 井門札幌パークフロントビル	TEL.011-272-1351
東北支店	〒980-0811	仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル	TEL.022-224-8270
新潟・北陸支店	〒950-0087	新潟市中央区東大通1-3-10 大樹生命新潟ビル	TEL.025-241-6540
名古屋支店	〒460-0003	名古屋市中区錦2-13-19 瀧定ビル	TEL.052-229-4420
大阪支店	〒541-0048	大阪市中央区瓦町3-6-5 銀泉備後町ビル	TEL.06-6227-1011
岡山営業所	〒700-0907	岡山市北区下石井2-1-3 岡山第一生命ビル	TEL.086-231-4356
九州営業所	〒810-0001	福岡市中央区天神1-13-2 興銀ビル	TEL.092-781-6231



本社 〒100-8366 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル TEL.03-3216-5548

特約店